

公益社団法人 信和会 看護奨学生だより

2024年9月

京都民医連あすかい病院 院長 中川裕美子



コミュニケーションの大切さ・・・
どんな仕事でも当然ですが、特に医療・介護の分野では本当に大切です。
患者さんは体も心も弱った状態でやってこられます。そのときにマスクをしていても笑顔で接し、つらさに寄り添うように優しくお話をお聞きする必要があります。これには、自分自身の体調も整えておく必要があります。自分自身が落ち込んでいると、患者さんに寄り添うのは本当に難しいです。つまり「皆さんにも健康で幸せになってほしい」というのが私の願いです。私自身は医療や介護の分野に携わってきて、多くの方から感謝される素晴らしい仕事だと思っています。
そしてこの病院もそこで働くスタッフも地域の宝です。皆さんと一緒に働ける日を楽しみに待っています。

公益社団法人信和会 看護部長 鴨川聡子



8月末に台風10号が発生し、これまでにない進路で迷走した結果、日本の各地に大きな被害を与えました。信和会も被害に備えて事前に災害対策本部を設置し、あすかい病院をはじめとする各事業所で対応しました。災害で医療機関や介護事業所が被害を受けると、多くの患者様や利用者様に大きな影響を及ぼし、その影響は地域全体へと拡大していきます。そのため、事業継続計画（BCP）の整備をし、災害時に地域の患者様・利用者様への影響が最小限になるように取り組んでいます。また、災害が多い日本で、私たちひとりひとりが防災意識を高め、備えていくことがいま、求められています。

京都民医連あすかい病院 副看護部長 山際正樹



本当に暑い夏が過ぎ去り、少し涼しい日も出てきましたね。皆さんは有意義な夏季休暇を過ごせたでしょうか？卒年は実習が始まっている方もおり、日々忙しく過ごしていると思います。あすかい病院には今年度10名の新人看護師が入職しました。すでに夜勤業務を頑張っている人もおり頼もしいです。さて、すでにお伝えしている通り、皆さんを担当する役割が物部副看護部長に代わります。看護学生の担当をして4年半が経過し、皆さんとは奨学金申請の時からのお付き合いとなりますので、名残惜しい限りです。4年半のほぼすべてがコロナ禍での活動となり、感染対策上出来なかったこともありましたが、新たに組み合わせたことも多くありました。達成感を得ながらも、更に発展した奨学生活動ができるように役割を引き継いでいきたいと思っています。皆さん、ここまでありがとうございました。将来、信和会事業所で一緒に働けることを楽しみにしています！！

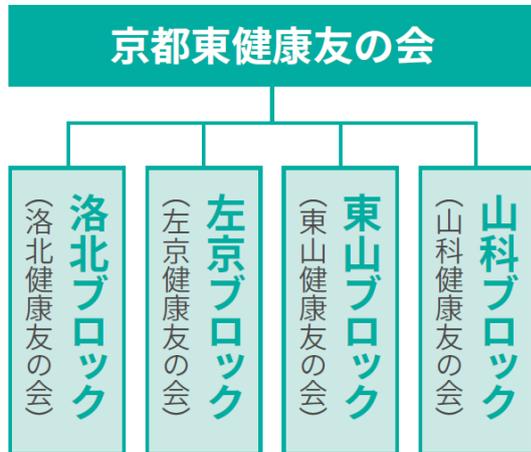
京都民医連あすかい病院 副看護部長 物部理奈



最近は朝晩が涼しくなり夏が終わりを告げていますね。暑い夏、夏季休暇を楽しく過ごせましたか？私は大好きなバンドのライブに行ったりして推し活を楽しんでいます。私も奨学生として過ごし民医連の病院に就職した1人です。看護師に憧れていたわけではなく資格があれば就職に困らないという考えから看護師になったため、最初は看護師に向いてないんじゃないかと悩んでいたこともありましたが、先輩看護師さん達に救ってもらい看護師を続けることができました。経験を通して看護の楽しさ、やりがい、生ききるに寄り添う看護の大切さを実感しています。

看護師人生はたくさんの人と出会い、知り合い、笑い合い、傷つくこともあるかもしれないけど歩み寄ることで“人”を知り、寄り添える人に成長すると思います。学生の間は実習やテストで忙しく、毎日が努力の日々で疲れてるかもしれませんが、この努力や苦勞を乗り越えた先に楽しさを感じる日がきます。それは必ず成長の糧になるので頑張ってくださいね。次は冬のつどいでお会いできるのを楽しみにしています。

京都東健康友の会の発足と友の会活動紹介



友の会の活動紹介

—健康づくり—

病院職員と地域の会員で運営する健康づくり委員会を中心に、健康講座、健康診断結果返し懇談会、青空健康チェックなど、年間を通じて健康づくりにつながる企画をします。

—まちづくり—

地域の様々な団体と協力して見守り活動や、地域で起きている問題、住民要求などに寄り添い、より住みやすいまちにするべく活動しています。健康に関するもののほか、法律相談も行っています。



これまで、信和会内の地域・事業所には京都左京健康友の会、洛北診療所健康友の会、東山健康友の会、山科健康友の会と4つの友の会がありました。「安心して住みつけられるまちづくり」をコンセプトにそれぞれの地域で活動してきましたが、2024年度からは、より広範な地域住民と結びつくまちづくりを発展させるため、4つの友の会を一体にした京都東健康友の会を発足しました。



—居場所づくり—

地域のなかに、懇談会、健康教室、お食事会、認知症カフェ、子育て支援、相談会、各種サークル活動などを行う事ができる場所をつくっています。日常のなかで気軽に出入りできる場所を目指しています。

—社会保障・平和について—

『現行の健康保険証を残してください』署名をはじめ、私たちの生活や健康づくりに関わる医療・社会保障の充実を求めたり、平和に関わる取り組みをしています。

ジェンダーの取り組み ～トイレ表示



あすかい病院では多様性の尊重を掲げ、性的マイノリティ(LGBTQ)を含む全ての人(SOGI)を尊重し、「だれもが利用しやすい事業所づくり」の取り組みを位置づけています。その一つのチームである LGBTQ プロジェクトの取り組みを紹介します🍀

プロジェクトチーム会議では最初に「これから何をしていくか」みんなで話し合い、そこで出た意見のひとつに『トイレの表示』がありました。

ふだん意識していなかったことですが、『女性トイレ』も『男性トイレ』も使いづらいという方がいます。そういう心配をせず、誰もが安心してトイレを使える表記にするにはどうしたらいいか話し合いました。「『多機能』や『多目的』では誤解が生じやすいのでは?」、「性別問わず使用できる『バリアフリー』や『ファミリー』とかどうだろう?」など色々な意見が出ました。そこで、まずは扉に虹マークを付けてみることにしました。

まだまだ始めたばかりの取り組みで本当にこの方法がいいのかわかりませんが、試行錯誤を重ねて改善していきたいと思います。少数の人のために…ではなく、誰もが尊重される社会のために、これからも取り組みをしていきます。

あすかい病院 キラッと看護の紹介



緩和ケア病棟でのキラッと看護をご紹介します♪

緩和ケア病棟では、定期的に入院患者さんにご家族向けのイベントを開催しています。8月16日には、病院のサークル「カノア」がフラダンスを披露しました。

「カノア」はハワイ語で「自由」という意味です。去年の左京健康まつりの時に病院の職員+αによって結成され、それから仕事終わりに月1回ほどのペースで集まって楽しく練習していました。

最初にフラダンスを踊ったあとは、メンバーが患者さん一人ひとりについて一緒に歌を歌ったりもしました。歌と踊りと衣装とで、病棟がとても華やいだ雰囲気になり、患者さんの気持ちも明るくなっただけでした(*^-^*)



あすかい病院 薬剤課の紹介



薬剤課は、薬剤師 10 名と事務 2 名の部署です。

主な業務内容としては、入院されている患者さんの内服薬や注射薬の調剤があります。お薬は、全ての患者さんに同じ量を投与するわけではありません。患者さん一人ひとりの身長や体重、そして血液検査結果に合わせて、量を細かく調整する必要がある薬もあります。

そこで、薬の専門家である薬剤師が、患者さんの情報をカルテで確認し、医師が処方した薬の量や投与方法が適切かどうかチェックしています。もし、調整が必要と判断した場合は、医師に報告し相談しています。

薬の調剤以外の業務としては、入院中の患者さんに薬の管理方法について説明することを行っています。お家での薬の管理状況などもお聞きし、退院後も適切に薬を飲み続けてもらえるように、入院中に薬をまとめるなどの工夫が出来ないか、一緒に考えています。また、主治医や看護師と行うカンファレンスや、退院後に利用される介護サービスの方たちと行うカンファレンスで、お家での薬の管理方法について報告し、情報を共有するようにしています。

あすかい病院 往診センターの紹介

こんにちは。あすかい病院往診センター看護師長の澤田祐子です。

あすかい病院往診センターは、常勤非常勤合わせ医師 17 名、看護師 7 名、事務 4 名、運転手 4 名。往診管理をしている患者さんは、2024 年 9 月時点で 420 名を超えました。

往診エリアは、北は花園橋、南は四条（緩和ケア患者さんは五条）、西は寺町（緩和ケア患者さんは烏丸）、東は上高野までの広い範囲を午前 2～3 コース、午後 2～3 コース、医師・看護師・運転手の 3 人組で診察へ廻っています。「住み慣れた場所で暮らし続けたい思い」を支えるため、24 時間 365 日様々な職種、事業所と連携をとり、『在宅支援チーム』として一丸になって支援を続けています。必ずいつかお会いできる日があります。共に思いを支える支援ができる日を楽しみにしています。

